中之島小中一貫校８年生学年だより

ぬくもり

Ｎｏ．８

２０２６年５月２５日(月)

８年学年主任責任編集発行

慣れだれ崩れ＝去れ

劇団四季のミュージカルを見たことがありますか？梅田にも劇場があって、今までに「オペラ座の怪人」や「ライオンキング」などの演目が行われました。北区の中学２年生は、劇団四季の講演を「芸術鑑賞」として無料で見に行ける機会があります。もちろん、今年度も計画されています。そのような機会に恵まれていることは当たり前ではありません。とてもありがたいことですね。

さて、今回はその劇団四季の稽古場や舞台裏に掲げられている標語について紹介します。それが「慣れだれ崩れ＝去れ」です。この言葉は、劇団員への戒めの言葉で、劇団四季の創立者で演出家の浅利慶太さんの教えです。「同じことを繰り返していると、人間は知らず知らずのうちに”慣れ”が生じてきます。 それはやがて”だれ”になり、”崩れ”を生み出す。ここにそんな人がいては困る。」という内容です。プロフェッショナル集団として、常にお客様に最高のものを提供するために一瞬の油断も許さない決意と覚悟を感じますね。しかし、この「慣れだれ崩れ＝去れ」はプロフェッショナル集団だけに言えることではありません。みんなの学級はどうでしょうか？１学期が始まって間もない頃は、新しいクラスや環境に少し緊張感をもって、学校生活を送っていましたね。また、学年が上がり、決意を固めたり、目標を定めたりしました。今はどうでしょうか？「慣れ」ることが絶対にいけないとは思いませんが、みんなの中でそれが「だれ」にはなっていませんか？これぐらいいいだろう。声をかけられていても、自分を優先してしまう。給食や終学活の用意をすべき時間なのに、後回しでトイレや手洗い場でおしゃべり。自分は関係ない、自分ぐらいいいだろうという「だれ」が出ていませんか？この次に続くのは「崩れ」です。学級・学年の集団として機能しない。みんながみんなのことをあきらめている。自分だけがその瞬間楽しければいい。まわりなんてお構いなし。「だれ」はそんな「崩れ」に向かいます。そして、そのように「崩れ」た集団は卒業の時に、惜しまれるのではなく、「去れ」と思われてしまうのです。みんながそんな集団になるとは全く思っていませんが、経験上、転げ落ちるのが一瞬であることも先生は知っています。今一度、一人ひとりができることを自分のため、集団のために行ってみませんか？立ち上がるべき時は、今です。そして、もう、立ち上がっている仲間もいます。

素直さ・縁（仲間）・考え続けること（思考）を大切にする ⇒ あったかい学年に!!